

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2071500488		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム さとび		
所在地	長野県塩尻市大字片丘道下11146番地 (電話) 0263-51-6310		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成19年12月12日

【情報提供票より】 (平成19年 9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 12.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有 (円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	(有) (100,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	390 円	昼食	390 円
	夕食	390 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,170 円	

(4) 利用者の概要 (平成19年 9月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0	要介護2	7		
要介護3	8	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85.4 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 桔梗ヶ原病院	・ 鴨居歯科
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中央道塩尻インターより車で5分くらい走ると築100年以上の門構えの立派なお屋敷が目に入る。同法人の通所介護「無暦日庵」の表札が掲げられている。お屋敷を道なりに廻り裏手側に入るとホームがある。背中合わせの趣はお互い違っているが、目の前に広がる田畑とマッチしている。ユニット名にも名づけられている「茜」はホームより見た夕焼けの風景に基づきつけられたものである。ホーム内は平屋であるが天井が高く、中庭に面した部分は総ガラスになっており、自然の風景が一目できる。ホーム内に飾られたタペストリーも入居者の気持ちを和ませている。偶然、入居者が女性ばかりの現在、出来る範囲で身の回りのことを行い、とりとめのない会話をして毎日をゆくり、楽しく過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善事項として上げられた地域との交流も、少しずつ行われてきている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めて体験した職員が多く、難しく感じられたようであったが、有意義な自己評価が出来、気づきが多かったとインタビューでも語られていた。外部評価により違った視点で評価されることにも、職員自身、初心に帰れると結果に期待をしていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の関係者の参加により3ヶ月に一回の割合で委員会が開催されている。初回はグループホームの内容の説明から始まっている。ホーム開設当回事業見学に来た方もメンバーにいますが、実際に開設したホームに訪問してみても、「一般施設とはずいぶん違うという印象を持った」と感想をいただいている。今後は活動内容の報告と共に、ホームから地域に向けての働きかけへの協力の依頼等も課題として開催していただきたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	母体の法人が独自に家族へのアンケート調査を1年に1回行っている。家族の本音を発言していただき、今後の運営に反映したいという考えである。法人全体の方針である「ご利用者様」という意識が随所に見られ、常にホーム入居者の立場になり支援している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者と地域との関係は少しずつ交流がもたれてきている。通所介護の「無暦日庵」との協働で「認知症のケア」の勉強会を地域に呼びかけ行っている。今後も活動を継続し、「さとび」と地域の結びつきを更に強めていただきたい。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「そのひとらしく・・・地域の人々との交流・・・」の理念が玄関や事務室に掲げられている。ホームの理念は外部よりの来訪者や職員がいつでも目にすることができる。職員は、常に意識し見るように心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用時、職員には話しがされている。日々のミーティングでも管理者から伝えている。職員の言葉かけからも入居者への気持ちが伝わり、理念を実践に移していることが窺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自治会に自治会費を納入している。敬老会、新そば祭りなどの招待を受けている。春祭りには地区のお神輿が自主的にホームまで来ていただき入居者に披露されている。	○	地域よりの働きかけの場面が沢山あるが、今後は小さな事でも良いから、ホームからの地域への働きかけにより交流の場をつくっていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎日行われるミーティングの時間に、少しずつ項目を分けて職員で行われた。初めて参加する職員が多く、あらためて気づきの場面があった。		

グループホームさとび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議発足当時はホームの活動ビデオを見ていただいたり、ホームの内容の説明をし、理解を求めた。区の役員の入替わり等により活動内容の報告の繰り返しに留まっており、次へのステップに移行できない状況がやや見られる。	○	今後は、推進会議の議題を検討し、定例の議題と毎回違う議題を交え会議に臨んでいただきたい。また、外部評価結果も委員の方々にも見せていただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の派遣を受け入れている。市窓口とも連携は取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	行事の報告や、毎日の生活の写真を載せた「さとび便り」が3ヶ月に1回の割合で発行されている。お小遣いの収支は、家族が訪問された時に見せ、確認の記名をしていただいている。長期間訪問されない家庭には、電話等で連絡し、確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人主体で家族の方へ年1回アンケート調査を行っている。家族よりの返信は、記名でも無記名でもどちらでもよく、家族の本音が聞ける。ホームにも「意見箱」が設置されている。家族より「家にいたときより食が進むようになった」などと感謝の言葉もいただいている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家庭の事情で退職はある。法人の方針としては、グループホームの性質上、入居者と職員の馴染みの関係作りを考えると、職員の異動は極力行わない方針である。管理者は法人内での組織上の異動がある。		

グループホームさとし

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の機会があり参加している。新卒者には、「認知症の勉強会」を優先して参加させている。法人の委員会が毎週1回行われ、管理者がその場で知り得た情報をホーム職員へ伝達している。情報を共有する体制作りが出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。関連する研修やその他の情報の連絡がある。法人の関連のグループホームが5カ所あり、その中での交流は随時行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームとしては申込者の事前の情報チェックをしている。既入居者との関係を重視している。入居希望者には訪問していただき、雰囲気味わっていただいている。過去に家族と体験宿泊をして決めた方もいる。同敷地内のデイサービス利用者が入居した経緯もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は台所の仕事の手順を教わったり、日常使用する道具の「イロハ」を教えてもらったりする。毎日の生活の中で小さな事でも入居者に教えてもらうことを嬉しく感じている。		

グループホームさとび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活暦が調査されている。ホームに入ってから関わりで、話さなくても何を考えているのか、思っているのか少しずつ分かるようになって来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の担当職員を決めている。家族の意見、入居者の希望などを聞いて、担当職員が計画の原案を作成し、ミーティングで他の職員の意見を聞いて管理者が最終作成している。家族への説明はホームへ訪問していただいた時に行い、確認もしていただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。状況の変化がある場合は随時行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1週間に1回協力医の往診がある。入居者の受診への付き添いをしている。隣接のデイサービス「無暦日庵」の行事に参加することもある。		

グループホームさとび


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に継続して受診している方もいるが、家族よりの依頼で協力医への変更もしている。毎週月曜日に往診をしてもらっている。入居者の主治医として医療面、健康面の把握をさせていただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の考えは看取りも前向きに考えるという方針である。それに伴い研修も行っている。ホームとしてはハードな面では難しいと思われるが、家族とホーム、訪問診療の医師等を交え判断を決めたいとの意向がある。法人として受け皿の選択肢が多くあることが入居者にとっては心強いと思われる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書にも書かれているし、説明もされている。職員は採用時に本部で研修している。誓約書も提出してもらっている。毎日の生活でも、失禁時には部屋で処理をし、人目に分からないように新聞紙に包んで捨てるよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今は女性ばかりの入居者で、比較的、意思を表しやすい状態にある。今、ホーム内ではテレビの時代劇を見ることがブームで、午前と午後のテレビ時代劇を見て楽しんでいる。合間には手仕事など取り入れる工夫を職員がしている。		

グループホームさとび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に手洗いとうがいを各入居者が習慣として行っていた。シャレたお盆に一人ひとりの料理がのせられ、職員と共に会話を楽しみながら食べていた。工夫された盛り付けで一層食欲が増した。お楽しみ会のメニューは入居者が希望する料理を職員と一緒に作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後に入浴の時間が決めてあり、入居者の選択で入浴していただいている。また、シャワー浴の利用もしている。入居者は午前中の明るい時間に入ることを希望する方が多い。明るい時間に入ると気持ちもゆったりするようである。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しずつ体力の低下があるが、ホームの職員の働きかけで出来ることを時間をかけて行っている。掃除用のモップも小さめのものに変更したことで多くの方が掃除に参加できるようになった。柿を収穫して干し柿を作るなどの場面作りがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの敷地内に隣接するデイサービス「無暦日庵」の広い庭には、桜、もみじ、つつじ、百日紅など色々な樹木が植えられていて、そこを散歩したり、花見をしたりしている。散歩へ出かけられない時はホームで体操などを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望等への対処理由ではなく、ホームの入り口や西側が石垣になっているため、入居者の安全のためにストッパーをしている。家族への説明・了解はいただいている。		

グループホームさとび

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春・秋の2回消防署員立会いで訓練を行っている。敷地内には「防災倉庫」が設置されており、備品の保管もされている。毎月1回連絡網による緊急連絡訓練など、色々な設定の下に訓練をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部の栄養士が作成したメニューがあり、それを基にホームでアレンジしている。一人ひとりの食事の残量を毎食記入している。水分摂取も記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアにダイニングキッチン・リビング・洗面所・トイレ・浴室があり、中庭に面した部分が総ガラスで、ロールカーテンにより光の調節をしている。天気の良い日は暖房も要らないくらいで、ひなたぼっこの感じで過ごせる。四季ごとに代わるといふ粋なタペストリーも心を和ませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはホーム独自の名前が付けられている。入口には個人の表札がかけられている。季節ごとの衣類の入れ替えも、家族が手を出すと嫌がる方でも職員と一緒に受け入れてくれ、一人ひとり今までの馴染みのものを個人差はあるが持ち込んで独自の雰囲気のある居室作りをされている。		

※  は、重点項目。